

「ユニセフのつどい 2013 in みやぎ ～朗読“星に昇った少年”」を開催しました



5月31日(金)、仙台市福祉プラザ・ふれあいホールに約220名の方々が参加されました。「ハッピーバースデー3・11」の映像でつどいが始まり、2012年度の活動報告のあと、朗読会に移りました。名取市を中心に医療支援活動を行っている心療内科医の桑山紀彦さんが、「おばけでもいいからわが子に会いたい」という遺族のこぼれ話を聞いたことがモチーフとなって書き下ろしたオリジナル作品を、落語家の六華亭遊花さんが朗読しました。物語は、津波で大きな被害を受けた名取市閉上が舞台。震災1カ月後、4人の子どもたちが津波の犠牲になった小学生の「おばけ」と出会い、触れ合っていく中で、震災や津波のこと、「生と死」に向き合うというストーリーです。遊花さんの朗読を引き立てたのが石橋優子さんのピアノ演奏です。大勢の方々の涙を誘った朗読会でした。震災のことを忘れてはいけない、語り継いでいきたいとの思いを新たにすることができました。ロビーでは子どもたちが作ったジオラマ「あの日見た光景」「未来のぼくたちの街」の展示や、シリア危機の窮状を訴える写真パネルの展示も行いました。ユニセフ・カード&ギフトは31,340円の利用があり、募金は21,000円が寄せられました。

「ユニセフ シンポジウム 2013」が熊本で開催され、参加しました 6月3日(月)～4日(火)

高校生や大学生、アフリカ12カ国からの留学生、ユニセフの関係者約1,800名が参加しました。アグネス・チャン日本ユニセフ協会大使が今年4月に訪問した『ナイジェリア視察報告』を行いました。ナイジェリアのラゴスに広がる格差問題に直面する子どもたちの様子や、出生登録の件数を大幅に増したユニセフの新たな取り組みなどの報告がありました。第5回アフリカ開発会議に出席するために来日した、ユニセフのアンソニー・レーク事務局長の基調講演『みんなでつくる子どもの未来』では、『アフリカの高い経済成長を背景に支援より投資を求める声が上がっているが、その恩恵に浴さない子どもたちの問題が大きい。アフリカの子ども達が抱える問題が革新的な技術の開発により解決されている事例が出てきている。日本の若い世代が先頭に立ってアフリカの子どもたちの問題と支援の必要性を考えてほしい。』と話されました。



「UNICafe～気軽にユニセフ入門講座」 2会場で開催しました

6月15日(土)13時～16時、みやぎ生協文化会館ウイズで、6月18日(火)10時～12時、仙台市市民活動サポートセンターで開催しました。それぞれ18名、10名が参加しました。ワークショップ「地球の食卓」では、世界24ヶ国の家族のごはんを見てみようというフォトランゲージでわいわいしました。文化の多様性を知り、世界の人々の生活から私たちの暮らしを振り返りました。ユニセフの活動内容や、ネパール・スタディツアー報告では、日本からの募金がどのように役立っていたか、お知らせできました。だれでもできるボランティア活動のお知らせをして、8名の方がボランティア登録してくださいました。できるところからごいっしょに活動していただけること、たいへんうれしい限りです。気軽に参加してください。



アグネス・チャンさんの講演会が開催されます 6月30日(日)13:00より亘理町吉田小学校にて亘理町吉田西部まちづくり協議会の主催で開催されます。今年1月に、亘理町児童福祉施設(吉田保育所)落成式にアグネス大使が出席されました。もっと多くの人たちにお話しを聞かせてほしいとの協議会の方々の熱い思いが実を結びました。何度も被災地を訪問され、人々と触れあった様子や世界各国を訪問した様子が話されるでしょう。